



# 益田市・三隅町


## 県内最古の石塔 福王寺十三重塔

 益田市の中須町  
 <指定>県・建造物(石製十三重塔)  
 益田川西岸の中須町にある真言宗の寺。石塔は、五福寺の1つの安福寺があった中須浜崎の寺屋敷跡から、享保14年(1729)の益田川大洪水の際に掘り出されたもので、石台には「享保十四年六月九日、九重宝塔出現建立」とある。石塔は、2段になった高さ40cmの基壇の上に、台座、塔部、相輪があり総長4.2m。花崗岩で造られている。県内の石造文化財では最古の、鎌倉時代後期のものと考えられ、県指定文化財。  
 <交通> J R 益田駅からバス20分 福王寺口下車すぐ  
 <連絡先> 0856-22-3215


## 大きな本堂と雪舟庭園 万福寺

 益田市東町  
 <指定>国重文・建造物(本堂) 絵画、国・史跡および名勝(庭園) 県・彫刻ほか  
 益田川に程近い、東町の町中にある。中世益田の城主、益田兼見が1374年にこの地に移したものである。本堂はこのときの建立で、江戸時代に改修を受けているものの当初の姿をとどめており、国の重要文化財に指定されている。大規模で迫力ある建物だ。庭園は雪舟作と伝えられ、国指定の史跡および名勝。そのほかに、国重要文化財の絹本著色二河白道図をはじめ、数多くの寺宝もある。  
 <交通> J R 益田駅からバス7分 折戸下車徒歩3分  
 <連絡先> 0856-22-0302


## 朱塗りの本殿 染羽天石勝神社

 益田市染羽町  
 <指定>国重文・建造物(本殿)  
 万福寺に程近い山のふもと、益田東高校に隣接してある神社。本殿は三間社流れ造りという型式で、朱塗りの総ケヤキづくり。16世紀後半の建立で、規模はさほど大きくはないが趣のある社殿だ。国の重要文化財に指定されている。  
 <交通> J R 益田駅からバス7分 堀川橋下車3分  
 <いにしえ> 6巻P19


## 雪舟庭園が美しい 医光寺

 益田市染羽町  
 <指定>国・史跡および名勝(庭園) 県・建造物(総門) 旧国道191号線を益田から美都方面に向かい、益田川にかかる堀川橋を渡ってまもなく、山を背後に静かにたたずむ医光寺がある。寺の前にある総門(県指定文化財)は、七尾城の大手門を移したものといい、エキゾチックで力強いつくりだ。本堂裏の庭園は雪舟作と言われ、静かに座って眺めると心なごむ美しい庭だ。  
 <交通> J R 益田駅からバス10分 医光寺前下車すぐ  
 <連絡先> 0856-22-1668


## 益田氏の歴史を知る 益田市歴史民俗資料館

 益田市本町  
 大正時代に建てられた元・美濃郡役所を利用して、1983年開館した資料館。古びた板塼、白壁に石見瓦がよく映えている。歴史・考古資料のほかには産業、民俗資料5000点以上を所蔵。とくに七尾城や益田氏にかかわる資料が豊富。9時から4時。月・祝日の翌日休館。入館無料。  
 <交通> J R 益田駅からバス7分 折戸下車すぐ  
 <連絡先> 0856-23-2635


## 中世の益田を見守っていた 七尾城跡

 益田市七尾町  
 <指定>県・史跡  
 益田の古い町並みを見おろす標高120mの七尾山に築かれた山城。中世石見西部に勢力を誇った、益田氏の本拠であった。頂上の本丸から北に二手に分かれる尾根上に、連綿と平坦面(郭)が続いている。1992年、93年に発掘調査が行われ、本丸から柱を支える礎石が検出されたことから、瓦を葺いた建物があったこともわかった。  
 <交通> J R 益田駅からバス7分 本町下車、徒歩30分


## 中世益田氏の居館跡 三宅御土居跡

 益田市三宅町  
 <指定>県・史跡  
 泉光寺境内を中心とした一帯で、東西に土塁を残す中世益田氏の居館跡。東の土塁は高さ5m、長さ85m、西は高さ4.5m、長さ50m。1990年、91年に発掘調査が行われ、周囲には堀がめぐっていたことが確認された。益田氏の三宅居館は1370年ごろに完成したと言われていたが、調査では平安末期にまでさかのぼる可能性があることがわかり、1600年に益田元祥が須佐(山口県)に移るまでの長い間、益田氏はこの地を本拠にしていたようだ。泉光寺本堂の前に、直径1.7mの割石積みの井戸が残る。  
 <交通> J R 益田駅からバス7分 本町下車、徒歩3分


## 益田氏の館跡に静かにたたずむ 泉光寺

 益田市三宅町  
 <指定>県・絵画  
 三宅御土居跡の中に立つ寺。江戸時代、益田氏の館跡に益田氏の菩提寺として造られた。もと勝達寺の寺宝で、南北朝時代の作、絹本着色釈迦十六善神像(県指定)がある。  
 <交通> J R 益田駅からバス7分 本町下車、徒歩3分  
 <連絡> 0856-22-3430


## 万葉歌人 柿本人麻呂を祀る 柿本神社

 益田市高津町  
 <指定>県・建造物(本殿)  
 益田市街の西、県立万葉公園近くの丘の上にある。祭神は、万葉歌人の柿本人麻呂。本殿は入母屋造妻入りの変形春日造りという型式で、県指定文化財。高所に壮大な本殿があり、斜面に沿って斜めに登り段が付く社殿はなかなか立派だ。この神社がある丘は、中世には高津城として城に利用されていた。  
 <交通> J R 益田駅からバス7分 高津下車、徒歩5分  
 <連絡> 0856-22-0756  
 <いにしえ> 6巻P19


## 海に面した大古墳群 鶉ノ鼻古墳群

 益田市遠田町  
 <指定>県・史跡  
 日本海に突き出した、標高40mあまりの丘陵上に築かれている古墳時代終りごろの石見を代表する古墳群。かつては50以上の古墳があったらしいが、現在では方墳1基、前方後円墳2基を含む27基を残すのみだ。そのうち43号墳は、長さ30mほどの、かなり大きな前方後円墳だ。多く古墳の内部には、花崗岩の自然石を用いた横穴式石室があり、中に入ることができるものもある。周囲は松林で古墳の形がよくわかる。眼前に海がひかえた景勝地でもある。  
 <交通> J R 石見津田駅から徒歩15分 <いにしえ> 3巻P35


## 巨大な円墳 スクモ塚古墳

 益田市久城町  
 <指定>国・史跡  
 益田川河口の東側に広がる低丘陵の住宅地の中にある古墳。造り出し(祭りの場と考えられる、四角い壇状の高まり)の付いた長さ57mの円墳と考えられている。隣接して15mほどの方墳があり、以前はこれと合わせて100mの前方後円墳と考えられていた。古墳の斜面には、人の頭ほどの石を見ることができ、もとは全面に石が葺いてあったものらしい。道からすぐの所にあり、形もわかりやすいのでぜひ訪れてみたい古墳だ。  
 <交通> J R 益田駅からバス20分 スクモ塚下車、徒歩3分  
 <いにしえ> 3巻P36


## 石見一の前方後円墳 大元古墳群

 益田市遠田町  
 遠田川を見おろす丘の上にある古墳群で、前方後円墳1基と円墳6基からなる。大元1号墳は、長さ約88mと石見地方最大の古墳だ。古墳時代前期のものと考えられている。  
 <交通> J R 益田駅からバス20分 中遠田下車、徒歩20分  
 <いにしえ> 2巻P41


## 縄文から中世の複合遺跡 安富王子台遺跡・安富羽場遺跡

 益田市安富町  
 国道9号線を高津川沿いにさかのぼった河岸段丘上にある遺跡。ともに縄文時代から中世にかけての遺跡で、とくに王子台遺跡では多くの縄文土器や石器が出土、羽場遺跡では県内では珍しい周りに堀をめぐらした弥生時代の集落跡が見つかった。今は直接遺跡を見ることはできないが、古代の人たちの生活環境をうかがうことができるはずだ。  
 <交通> J R 益田駅から車10分 <いにしえ> 7巻P19


## 雪舟筆「益田兼堯像」 益田市立雪舟の郷記念館

 益田市乙吉町  
 <指定>国重文・絵画  
 1990年に、益田市の歴史文化ゾーン「雪舟山水郷」の核として、雪舟終焉地に隣接して開館した。建物は中世寺院様式をモデルにした和風建築で、中国の寧波市にある天童寺を模した茶色の瓦葺きである。雪舟・人麻呂を中心とした資料の展示・紹介が行われている。とくに雪舟筆の紙本着色益田兼堯像は、国の重要文化財。9時から4時。月・祝日の翌日休館。一般100円、小中高生50円。  
 <交通> J R 益田駅からバス10分 今市下車、徒歩10分  
 <連絡先> 0856-24-0500

## 雪舟ゆかりの寺 大喜庵


 益田市乙吉町  
 <指定>県・彫刻  
 雪舟の郷記念館と接している。雪舟が晩年を過ごしたと言われる、背後の丘の上には雪舟の墓と言われる石造りの遺子がある。所蔵の木造観音菩薩立像は、ヒノキの一本造りで鎌倉時代の作と言いい、県指定文化財。  
 <交通> J R 益田駅からバス10分 今市下車10分

## 復元整備された前方後円墳 小丸山古墳


 益田市乙吉町  
 大喜庵の背後の丘陵上にある前方後円墳。長さ49mと大形の古墳で、古墳の周囲に堀と外堀(古墳を取り囲む高まり)を備えている。6世紀前半ごろの古墳で、お

もな出土品として、鏡、馬鐙(馬の胸にぶら下げる鐘) 鈴杏葉(馬の尻に付ける飾り。山陰地方で初めて出土) などがある。公園として整備され、古墳がよくわかるようになっている。  
 <交通> J R 益田駅からバス10分 今市下車、徒歩10分  
 <いにしえ> 3巻P36


## 川べりの石垣が美しい 中世今市船着場跡

 益田市乙吉町  
 <指定>市・史跡  
 大喜庵や小丸山古墳のある丘のふもとを流れる乙吉川の川べりに、古い趣のある石垣が約30mほど続いている。このあたりは、中世のころは益田川と高津川が合流していた地点と推定され、船着き場として最適な場所であったと考えられる。石垣自体は江戸時代以降につくられたものらしいが、その下には中世の船着き場も眠っているようだ。  
 <交通> J R 益田駅からバス10分 今市下車すぐ

## 制作年代が刻まれた珍しい仏像 東陽庵


 益田市大草町  
 <指定>県・彫刻  
 益田市街の東側、旧山陰道沿いにある。所蔵の木造薬師如来坐像は、カヤ材の一本造りで、像高73cm。仏像の裏側に、10行の墨書の銘文がある。それによると、願主は藤原朝臣、作者は大仏師・蓮法、制作年代は延慶4年(1311)とある。この仏像は、作者と制作年がわかる数少ない銘彫刻の1つで、地方仏師のあり方、傾向を示す好例であり、県指定文化財となっている。  
 <交通> J R 益田駅からバス15分 保育所前下車、徒歩3分

## 見事な人麿童子像 戸田柿本神社


 益田市戸田町  
 <指定>市・彫刻(人麿童子像、付帯像)  
 高津町にある柿本神社とともに、益田市ゆかりの柿本人麻呂をまつる神社。社殿は江戸時代後期に火災で焼けたのち、1822年に再建されたものだが、彫刻のある門は見物。所蔵の人麿童子像と付帯像は、幼児の人麻

呂と養父母像、従者4体の7体からなり、着彩され威厳を持って立つ人麻呂像は見応えがある。  
 <交通> J R 戸田小浜駅から徒歩10分


## 益田を代表する横穴式石室 白上古墳

 益田市白上町  
 <指定>市・史跡  
 石見空港のあたりに高津川に合流する白上川をさかのぼった、白上町の河岸段丘の上にある古墳。長さ7.8mの古墳時代後期の横穴式石室を持つ。これは、石を積み上げて石室を築いた、石見西部を代表する横穴式石室の1つだ。  
 <交通> J R 益田駅から車20分 <いにしえ> 3巻P36


## 城の下にある三隅氏の菩提寺 龍雲寺

 三隅町芦谷  
 <指定>県・書跡、町・絵画・書跡  
 三隅町の東にそびえる高城山(362m)の中腹にある。1382年、無端祖環により美濃郡種村(現益田市)に開創され、1441年、当地の豪族三隅信兼によりこの地に移転、三隅氏の菩提寺として繁栄したと伝えられる。本堂の格天井の狩野惟信作の八方にらみの龍が有名。県指定の紙本墨書大般若経600巻(南北朝期) 紺地金泥金剛経(平安期)などがある。この山は中世にこの地一帯を支配した三隅氏の居城・三隅城跡で、頂上一帯には平坦な面や石垣を見ることができる。  
 <交通> J R 三保三隅駅から車15分 <連絡先> 0855-32-0960


## 珍しい仏像 正法寺

 三隅町三隅  
 <指定>県・彫刻  
 三隅の市街の北側にある寺で、737年、行基の開祖と伝える。南北朝時代の武将・三隅兼連の供養塔がある。同寺の菩薩形立像は、鳥根県で2体しか確認されていない沐喰仏として有名。県指定の木造雨宝童子立像(鎌倉期)や木造薬師如来坐像(平安末期)がある。  
 <交通> J R 三保三隅駅からバス5分 正法寺前下車すぐ


## 石州半紙の紙すき道具が豊富 三隅町歴史民俗資料館

 三隅町三隅  
 1979年に、町民から約3000点の民具の寄贈を受けて三隅公園内にオープンした。衣食住関係、生業関係のさまざまな民具があるが、とくに国の重要無形文化財に指定されている石州半紙の紙すきの道具が見もの。9時から4時。土、日曜休館。一般206円、中高大生103円、小学生52円。  
 <交通> J R 三保三隅駅からバス6分 三隅下車すぐ  
 <連絡先> 0855-32-1785


## 古墳時代終りごろの横穴墓 高田横穴墓群

 三隅町湊浦  
 三保の県道の山側にあり、古墳時代後期のもの。現在5穴が開いている。1961年に出土した直刀、矢じり、土器などは、三隅町歴史民俗資料館に展示してある。  
 <交通> J R 三保三隅駅から徒歩20分


## 横穴式石室のある古墳 大谷古墳

 三隅町井野  
 井野川に隣接した台地上に築かれた横穴式石室を有する古墳。羨道(棺が納められている) 玄室への通路と玄門(玄室への入口)は崩壊し、玄室のみ残っている。加工しない大型の自然石を組合せたもの。  
 <交通> J R 三保三隅駅から車15分

## 浜田、三隅が一望 大麻山神社

 三隅町室谷  
 <指定>県・絵画、町・史跡  
 標高605mの大麻山上に鎮座する古社。888年の託宣により、890年、阿波国大麻比古命神社から分霊を勧請したのに始まると伝えられる。中世には山岳仏教の修験道場となり、西高野の名で知られた。境内には名園とされる石組みの庭園がある。紙本墨画淡彩縁起絵巻1巻は、県指定。大麻山の頂上には展望台もある。また町内の東平原から神社までの参道には、2丁ごとに道標の石が建てられており、町指定文化財。  
 <交通> J R 折居駅から車20分

益田市には、万葉の歌人・柿本人麻呂の終焉の地伝説が残っているが、終焉の地とされている鴨島は、地震で海中に沈んだことになっている。近年、鴨島を探すためにハイテク技術を駆使した海中の発掘調査が実施されたが、発見には到らなかった。鴨島はいったいどこに?

 **おたっきー情報**  
 益田市の四ツ塚山古墳の「三角縁神獣鏡」は、1972年、団地の造成工事中に出土した。1983年には、資料館展示中に石西一帯を襲った集中豪雨により水を被るといふ被害にあっているが、前期古墳の調査例の少ないこの地域において、貴重な資料となっている。